

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「キリストと共に旅路を歩む」

—時代の流れと変化の中で—

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

今年は例年よりも大雪となっている地域が多く、春の復活日が待ち遠しいですね。オミクロンの感染拡大が高止まり状態で身近な方が感染されたという方も多いと思います。これまでの当たり前がそうではなくなる経験をしながら、各教会では感染対策を十分に行ない、様々な工夫をして礼拝生活が守られています。

私たちの礼拝生活で欠かすことのできない聖書・祈祷書・聖歌集も、時代の流れと共に変化を遂げてきました。

聖歌集は2006年に改訂され、コロナ危機の最中で481番の「この世のなみかぜさわぎ」の著作権使用申請が多数寄せられています。聖書は「聖書協会共同訳」という新しい翻訳聖書が2018年に発行され、その使用が2020年の総会で認許されました。祈祷書は2026年の確定を目指して祈祷書改正委員会が設置され、これから試用版の発行がなされていく予定です。祈祷書改正ニュースの第1号・2号が発行されていますので、ぜひ広くお読みいただければ幸いです。

「日本聖公会祈祷書とは、日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、神に造られ、いのちを与えられた民として、キリストと共に旅路を歩いていくために用いる祈りの書です。」と、祈祷書改正準備委員会で祈祷書改正ミッション・ステートメントが示されています。これは、祈祷書にかかわらず、聖歌集や聖書にも当てはまる指針だと思います。様々な考えや価値観、経験を持つ人々が、イエス・キリストによって結び合わされて、共に聖書を読み、祈り、賛美し、「神と人とを愛する」ために働く共同体が教会です。聖書にも様々な翻訳があり、同じ聖句でも一人ひとり解釈が異なりますし、心に響く聖歌もそれぞれです。時代の変化と共に、必要とされる祈りの言葉や内容も吟味する必要があります。

今、世界の聖公会で「セーフ・チャーチ・ガイドライン」という指針が示されています。誰にとっても安全で安心できる教会であるためのガイドラインです。日本聖公会でも翻訳を進め、日本聖公会としてのガイドラインの作成を目指して作業を進めています。すべてのいのちの尊厳が守られる社会・教会であるために、イエスさまの十字架と復活の生き様を模範としながら、祈りと奉仕の

口会議・プログラム等予定

(2022年2月25日以降・前回未掲載分)

2月

- 1日(火) 祈祷書改正委員会 [Web]
- 13日(日) 青年委員会 [Web]
- 24日(木) ハラスメント防止・対策担当者打ち合わせ [Web]
- 25日(金) 人権問題担当者会 [Web]
- 25日(金) 宣教協議会・ぶどうの枝分科会 [Web]
- 28日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 28日(月) Zoom カフェ「原発はやめよう」 [Web]

3月

- 2日(水) 聖公会/ルーテル教会協議会/カトリック合同会議 [Web]
- 3日(木) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会 [+Web]
- 3日(木) 女性デスク/正義と平和・ジェンダープロジェクトミニ講演会 [Web]
- 4日(金) 宣教協働者招聘委員会 [Web]
- 4日(金) 宣教協議会・ぶどうの枝分科会 [Web]
- 6日(日) 青年委員会 [Web]
- 8日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [Web]
- 9日(水) セーフ・チャーチ・ガイドライン WG [Web]
- 14日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 15日(火) 憲法法規委員会 [Web]
- 17日(木) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 18日(金) 収益事業委員会 [+Web]
- 23日(水) 女性団体連絡協議会 [Web]
- 24日(木) 財政主査会 [+Web]
- 24日(木) 主事会議
- 25日(金) 教役者給与タスクフォース会議 [+Web]
- 29日(火) 管区共通聖職試験委員会 [Web]
- 31日(木) 第67(定期) 総会書記局会議 [Web]

4月

- 2日(土) ハラスメント防止・対策担当者会 [Web]
- 4日(月) 常議員会
- 7日(木) 管区会計監査

(次頁へ続く)

※管区事務所の就業時間
当面の間、新型コロナウイルス対策のため、就業時間を平日(月～金) 10:00～16:30 といたします。(職員出勤体制)

信仰生活を共に歩んでまいりましょう。

「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」(2022年大斎節聖句・マタイ20:28、聖書協会共同訳)

公 示

日本聖公会第67(定期)総会を下記のように招集いたします。

救主降生 2022年2月24日
日本聖公会 総会議長
主教 ルカ 武藤謙一 ㊟

記

日時: 2022年5月31日(火) 13時から6月2日(木) 12時まで
場所: ルーテル市ヶ谷センター・ホール(開会聖餐式および3日目)
〒162-0842 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1
TKP市ヶ谷カンファレンスセンター(1日目・2日目)
〒162-0844 東京都新宿区市ヶ谷八幡町8

※当日までの状況により、場所等を変更する可能性もあります。

以上

□主事会議

第65(定期)総会後第7回 2022年2月7日(月)
＜主な報告・協議＞

1. フィリピンの台風被害支援について、フィリピン聖公会とフィリピン独立教会に合計30万円、トンガでの海底火山噴火と津波の被害支援について、アロテアロア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会のアングリカンミッションとオーストラリア聖公会のアングリカンボードオブミッション(ABM)に合計30万円を緊急支援資金より支出することを承認した(メール稟議の追認)。
2. 第67(定期)総会について、日程や提出予定の議案などについて確認した。

次回会議: 3月24日(木)

(前頁より)

20日(水) 人権問題担当者会 [Web]
22日(金) 臨時主教会 [北海道]
23日(土) 北海道教区主教按手・就任式 [北海道+ Web]
27日(水) 正義と平和委員会 [+Web]
＜関係諸団体会議・他＞
2月15日(火) WCC 総会 NCC ワークショップ企画会議 [Web]
18日(金) WCRP 核・平和首長会議面談 [Web]
3月28日(月)～31日(木) 首座主教会議 ロンドン+ Web
4月5日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]
11日(月) ACT ジャパンフォーラム運営委員会 [Web]
12日(火) NCC 役員会 [Web]
18日(月) キリスト教平和ネット運営委員会 [Web]
19日(火) 「同宗連」総会(京都)
21日(木) 日本キリスト教連合会総会 [Web]
26日(火) NCC 役員会・常議員会 [Web]

□常議員会

第65(定期)総会期第11回 2022年2月14日(月)

＜主な決議事項＞

1. 基本財産の変更(東北教区: 和田湖畔ヴァイアル山荘の解体および改築、九州教区: 久留米聖公会の解体・境内地売却・不動産購入および教区センター・福岡聖パウロ教会の解体・不動産売却処分・建築)

と教区規則変更(京都教区: 記載住所の変更・削除および所轄庁の変更) に関して、承認した。

2. 2022年度管区事務所職員給与(定期昇給) に関して、承認した。
3. 給与調整システムの試算方式の変更および管区標準給与表と給与規定案に関して、教役者給与タスクフォースより報告を受けて意見交換を行ない、今後の周知や取り扱いについて次回常議員会にて再度協議することとした。
4. 5月31日(火)～6月2日(木) に予定している日本聖公会第67(定期)総会に関して、日程や提出予定議案についての共有を行なった。聖公会年金の減額案について、継続の

公 示

救主降生 2022年2月24日
日本聖公会 首座主教
主教 ルカ 武藤謙一 ㊟

日本聖公会北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠師の定年退職にともない、下記の通り管理主教を委嘱いたします。

記

日本聖公合法規第10条第1項により、日本聖公会東北教区主教 ヨハネ 吉田雅人 師に、日本聖公会北海道教区の管理主教を委嘱する。

任期は、2022年4月1日より、次期北海道教区主教就任の日までとする。

以上

見通しや解散するとした場合のシミュレーションについての必要資金についての予測計算をもとに意見交換を行ない、年金委員会ともやり取りしながら加入・受給教役者の意見を丁寧に聞いていくことも必須であることを確認し、次回常議員会にて再協議することとした。

5. 管区諸委員の退任と交代に関して、宮崎光司祭(東京):礼拝委員・祈祷書改正委員を2022年1月31日付で退任、木村直樹司祭(北関東):祈祷書改正委員・管区共通聖職試験委員(礼拝)・ハラスメント防止・対策担当者を定年により3月31日付で退任、金大原司祭(東京):ハラスメント防止・対策担当者に4月1日付で就任することを承認した。

次回会議:4月4日(月)

□各教区

北海道

- すでに公示のとおり、主教被選者 マリア・グレイス笹森田鶴 師の主教按手式および日本聖公会北海道教区主教就任式が2022年4月

23日(土) 午前10時より北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会)で行なわれます。按手式および就任式に際しては広くご臨席いただくことを望んでいましたが、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すため、席数・人数を限定して行うこととなりました。そのため式へのご出席は招待者のみとさせていただきますので何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

尚、按手式・就任式はオンライン配信を予定しております。近くなりましたら北海道教区ホームページ(<http://nssk-hokkaido.jp>)でご確認ください。どうぞ心を合わせてオンラインでご参加、ご加禱を賜りますようお願いいたします。

東京

・聖職按手式 2022年3月12日(冬期聖職按手節土曜日)14時～ 東京教区 聖アンデレ主教座聖堂 司式:主教 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸 説教:北海道教区主教 主教 ナタナエル植松 誠 執事按手志願者:聖職候補生 スザンナ中村真希、聖職候補生 セシリア高柳章江

- ・第140(定期)教区会 2022年3月21日(月・休)13時～17時(選挙は郵送投票)教区会館および各議場教会

大阪

- ・第128(臨時)教区会 2022年3月20日(日)15時～17時 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)

□神学校

ウイリアムス神学館

- ・2021年度卒業礼拝(卒業証書授与式) 2022年3月11日(金)11時～ 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 説教:主教 ルカ武藤謙一(九州) 卒業予定者:ダビデ佐藤 充(九州)



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 バルナバ小貫雅夫 (北海道・退) 2022年2月6日(日) 逝去(91歳)

主教 ダビデ谷 昌二 (沖縄・退) 2022年2月9日(水) 逝去(80歳)



第67(定期) 総会代議員

	聖職代議員	信徒代議員
北海道	司祭 ペテロ大町信也	グレゴリー大友 宣
	司祭 ヘレン木村夕子	ヤコブ山崎典美
東北	司祭 フランシス長谷川清純	バルナバ赤坂有司
	司祭 ステパノ越山哲也	フランシス畠山秀文
北関東	司祭 パウロ矢萩栄司	マルコ谷川 誠
	司祭 ダビデ斎藤 徹	サムエル廣瀬 清
東京	司祭 ロイス上田亜樹子	テレジア黒澤圭子
	司祭 フランシス下条裕章	ヤコブ後藤 務
横浜	司祭 エドワード宇津山武志	グレース村井恵子
	司祭 ルカ片山 謙	テモテ中林三平
中部	司祭 テモテ土井宏純	クリスティーン池住 圭
	司祭 アンブロジーア後藤香織	ヨハネ牛島達夫
京都	司祭 セシリア大岡左代子	レオ出口 弘
	司祭 アントニオ出口 崇	マーガレット安藤邦子
大阪	司祭 ステパノ柳 時京	ヨハネ太田幸彦
	司祭 バルナバ小林 聡	ルデヤ辻 節子
神戸	司祭 バルナバ瀬山会治	ルデヤ覚前康子
	司祭 ダビデ林 和広	ジョージ大東正人
九州	司祭 マルコ柴本孝夫	パウロ細川眞二
	司祭 ミカエル李 相寅	ハンナ東 美香子
沖縄	司祭 イザヤ金 汀洙	アンデレ富本盛彦
	司祭 ベネディクト高 英敦	ジェローム並里 厚



第67(定期) 総会期書記局

書記長

司祭 菅原裕治(東京)

書記

司祭 平岡 康弘(北関東)

司祭 北澤 洋(横浜)

司祭 姜 暁俊(横浜)

司祭 窪田真人(横浜)

執事 藤田美土里(東京)

聖職候補生 藤田 誠(東京)

《人事》

北海道

司祭 クリストファー永谷 亮 2021年11月22日付 (旧) 旭川聖マルコ教会及び(旧) 稚内聖公会
管理牧師の任を解く。

2021年11月23日付 (新) 旭川聖マルコ教会管理牧師に任命する。

2021年11月23日付 稚内聖公会(伝道所)の管理司祭に任命する。

司祭 サムエル吉野暁生 2021年11月22日付 (旧) 釧路聖パウロ教会及び(旧) 厚岸聖オーガスチン教会管理牧師の任を解く。

2021年11月23日付 (新) 釧路聖パウロ教会牧師に任命する。

2021年12月13日付 厚岸聖オーガスチン教会(伝道所)の管理司祭に任命する。

北関東

司祭 パウロ矢萩栄司 2022年3月31日付 下館聖公会教会牧師、水戸聖ステパノ教会、日立聖アンデレ教会、小山聖ミカエル教会、栃木聖

		アルバン教会管理牧師の任を解く。
	2022年4月1日付	大宮聖愛教会牧師、幸手基督教会および下館聖公会管理牧師に任命する。
司祭 ルカ平岡康弘	2022年3月31日付	栃木聖アルバン教会協働司祭の任を解く。
	2022年4月1日付	栃木聖アルバン教会牧師、小山聖ミカエル教会管理牧師および下館聖公会協働司祭に任命する。
司祭 ガブリエル西海雅彦	2022年3月31日付	立教学院への出向および熊谷聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
	2022年4月1日付	水戸聖ステパノ教会牧師および日立聖アンデレ教会管理牧師に任命する。
司祭 パウロ鈴木伸明	2022年4月1日付	熊谷聖パウロ教会管理牧師に任命する。
執事 バルナバ岸本 望	2022年3月31日付	水戸聖ステパノ教会および日立聖アンデレ教会協力の任を解く。
司祭 エレミヤ・パウロ木村直樹	2022年3月31日付	定年により退職とする。
		大宮聖愛教会牧師および幸手基督教会管理牧師の任を解く。
主教 ゼルバベル広田勝一(退)	2022年4月1日付	志木聖母教会嘱託勤務(定住)を委嘱する。(任期1年)
司祭 サムエル興石 勇(退)	2022年4月1日付	榛名聖公会嘱託勤務(協働司祭)を委嘱する。(任期1年)
司祭 アンデレ斎藤英樹(退)	2022年4月1日付	教区内諸教会での嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
司祭 ヤコブ八戸 功(退)	2022年4月1日付	幸手基督教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
司祭 ヨハネ小野寺 達(退)	2022年4月1日付	東松山聖ルカ教会嘱託勤務(定住)を委嘱する。(任期1年)
伝道師 アンブローズ久保田 智(退)	2022年4月1日付	日光真光教会嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
東京		
司祭 カスリーンJ. カリネイン	2021年11月21日	聖オルバン教会牧師(インテリム)を解任する
司祭 パウロ宮崎 光	2022年1月31日付	立教学院への出向を解く
		大森聖アグネス教会管理牧師の任を解く
	2022年2月1日付	聖アンデレ主教座聖堂付とする
司祭 アモス金 大原	2022年2月1日付	大森聖アグネス教会管理牧師に任命する
主教 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸	2022年4月1日付	小笠原聖ジョージ教会管理牧師任命 渋谷聖公会聖ミカエル教会管理牧師任命 聖マルコ教会管理牧師任命
主教被選者 司祭 マリア・グレイス笹森田鶴	2022年3月31日付	小笠原聖ジョージ教会管理牧師解任 渋谷聖公会聖ミカエル教会管理牧師解任
	2022年4月1日付	日本聖公会北海道教区へ転籍

司祭 オーガスチン杉山修一(退)	2022年4月1日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会嘱託委嘱(任期1年)
司祭 ペテロ井口 諭(退)	2021年4月1日付	神田キリスト教会嘱託委嘱(任期1年)
司祭 グロリア西平妙子	2022年4月1日付	聖救主教会副牧師任命
執事 ヒルダ藤田美土里	2022年3月31日付	聖マーガレット教会牧師補解任
	2022年4月1日付	聖マルコ教会牧師補任命
司祭 ダビデ倉澤一太郎	2022年3月31日付	小金井聖公会牧師解任
	2022年4月1日付	立教学院へ出向
司祭 マッテヤ大森明彦	2022年4月1日付	小金井聖公会管理牧師任命
司祭 アタナシオ佐々木 庸	2022年3月31日付	定年により退職
主教 アンデレ大畑喜道	2021年12月23日付	日本聖公会主教会議長より復職許可
	2022年1月1日付	聖アンデレ主教座聖堂付とする

横浜

司祭 バルナバ大野清夫	2022年3月31日付	柏聖アンデレ教会管理牧師を解任する。
主教 イグナシオ入江 修	2022年3月31日付	松戸聖パウロ教会管理牧師を解任する。
	2022年4月1日付	逗子聖ペテロ教会管理牧師に任命する。
司祭 ラファエル宮崎 仁	2022年3月31日付	逗子聖ペテロ教会牧師を解任する。
	2022年4月1日付	松戸聖パウロ教会牧師、柏聖アンデレ教会管理牧師に任命する。
司祭 ヤコブ三原一男(退)	2022年4月1日付	主教イグナシオ入江修管理のもとで逗子聖ペテロ教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
<信徒奉事者認可> (静岡聖ペテロ教会)	2022年1月11日付(任期1年)	マルコ平岡義和

神戸

司祭 セバスチャン浪花朋久	2022年3月31日付	松山聖アンデレ教会牧師の任を解く
	2022年4月1日付	大洲聖公会管理牧師の任を解く
		学校法人立教学院出向を命ず (期間2022年4月1日～2025年3月31日)
司祭 マルコ藤井尚人	2022年3月31日付	広島復活教会牧師の任を解く
	2022年4月1日付	呉信愛教会管理牧師の任を解く
		松山聖アンデレ教会牧師に任命する
		大洲聖公会管理牧師に任命する
司祭 バルナバ永野拓也	2022年3月31日付	広島復活教会副牧師の任を解く
	2022年4月1日付	広島復活教会牧師に任命する
		呉信愛教会管理牧師に任命する

九州

司祭 テモテ山崎貞司	2022年3月31日付	定年により退職とする。 大分聖公会牧師および久留米聖公会牧師の任を解く。
司祭 テモテ山崎貞司(退)	2022年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもとにおいて大分聖公会嘱託司祭として勤務することを委嘱する。また延岡聖ステパノ教会主日礼拝協力を委

		嘱する。(任期1年) 聖公幼稚園チャプレンは継続。
司祭 バルナバ牛島幹夫	2022年3月31日付	主教座聖堂勤務の任を解く。 草ヶ江幼稚園チャプレンの任を解く。
	2022年4月1日付	長崎聖三一教会牧師および佐賀聖ルカ伝道所 管理牧師に任命する。
司祭 マルコ柴本孝夫	2022年3月31日付	長崎聖三一教会牧師、佐賀聖ルカ伝道所管理 牧師、久留米聖公会副牧師の任を解く。
	2022年4月1日付	福岡聖パウロ教会牧師および久留米聖公会 牧師、草ヶ江幼稚園チャプレンに任命する。 住居は福岡聖パウロ教会。
司祭 ミカエル李 相寅	2022年3月31日付	福岡聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
執事 セシリア塚本祐子	2022年4月1日付	宗像聖パウロ教会牧師補に任命する。
聖職候補生 ダビデ佐藤 充	2022年4月1日付	久留米聖公会勤務を命ずる。 久留米天使こども園チャプレンに任命する。
司祭 ダビデ中島省三(退)	2022年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもとにおいて鹿 児島復活教会嘱託司祭として勤務することを委 嘱する。(任期1年)
司祭 ステパノ中村 正(退)	2022年4月1日付	主教ルカ武藤謙一のもとで佐世保復活教会 において嘱託司祭として勤務することを委嘱す る。また厳原聖ヨハネ教会主日礼拝協力を委嘱 する。(任期1年)
司祭 キャサリン吉岡容子(退)	2022年4月1日付	宗像聖パウロ教会および八幡聖オーガスチン 教会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 パウロ濱生正直(退)	2022年4月1日付	福岡聖パウロ教会および福岡ベテル教会主日 礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 バルナバ壹岐裕志(退)	2022年4月1日付	福岡ベテル教会主日礼拝協力を委嘱する。(任 期1年)
主教 ルカ武藤謙一	2022年4月1日付	大分聖公会管理牧師に任命する。

《教会・施設》

教会の合併(北海道):再録	2021年12月13日付	釧路聖パウロ教会の伝道所として厚岸聖オー ガスチン教会(伝道所)の設立を認可する。 (前号掲載認可年月日訂正/誤:2021年11月23 日)
南静園聖ミカエル教会(沖縄)	2022年2月以降	郵便物送付不要。

*お詫びと訂正 『管区事務所だより第372号』

《人事》九州 <信徒奉事者認可> (熊本聖三一教会)

(正) 秋山みどり(誤) 秋山みとり、(正) 島 卓郎(誤) 島 拓郎

以上、お詫びして訂正いたします。

2022年「正義と平和委員会」の活動が目指すもの 小さい者に寄り添う

正義と平和委員会 委員長 主教 ダビデ上原榮正

『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(マタイ 25章 40節)

「戦争は忘れた頃にやって来る」と言います。沖縄戦終焉の地である糸満市の摩文仁の丘には、各県の慰霊碑が建立されています。碑文の多くは、日本の恒久平和を願い建立したと記しています。慰霊碑が出来た当初、摩文仁は観光名所となり大勢の人が訪れていました。しかし、戦争が遠い過去のものとなった今、普段は訪れる人は殆どいません。

2015年に「有事法制」が制定され、日米の軍事同盟は強化されました。米軍への軍事的脅威は日本の脅威となると解釈され、日本は米軍と共に戦うこととなります。

2021年12月にNHKで「台湾海峡で何が＝米中新冷戦と日本」という番組が放映されました。数年の間に中国が台湾を武力で統一すると予想されています。それに備え、中国軍と米軍との軍備比較や阻止のための軍事演習が行なわれています。このままでは2025年頃には米軍は台湾海峡を抑えることは困難になります。

この番組では、有事の際、台湾に最も近い与那国島の島民避難のことも取り上げていました。与那国島はかつてテレビ番組「Dr. コトー診療所」で有名になった島です。島民約1,700人をどのように避難させるかで、自治体職員が頭を悩ませていました。

地元新聞でも「台湾有事」は時々話題になります。戦争になれば当然、米軍基地が標的となります。宮古、石垣群島に約12万人、沖縄本島周辺に約120万人の住民が暮らします。即時の住民避難は困難です。にも関わらず、台湾有事に備えて奄美諸島から琉球列島にかけ自衛隊基地を配備・強化し、米軍と共同使用するとの報道がなされています。つまり、奄美、沖縄の住民を巻き込んで戦争の準備がなされているということです。

沖縄戦では多くの住民が戦争犠牲者となりました。日本軍による住民の壕からの追い出し、陣地が敵に見つかるからと、泣く子や赤ん坊の戦場への遺棄、住民からの食料強奪、沖縄語を使う者はスパイと見做して処刑など、戦争になれば、平時と違い弱者は捨てられ置き去りにされます。でも、兵士たちの残虐行為は軍の命令を遂行したのであり、決して日本軍兵士が勝手にしたものではありません。戦争が人間と人の心を変えるのです。

1952年のサンフランシスコ条約では、沖縄、奄美を米軍支配下に置き、その犠牲の上で日本は独立を果たしました。朝鮮戦争で経済復興のきっかけをつかんだ日本は高度成長を果たし、国民総生産でも世界第2となり、豊かで平和な日本になりました。その陰に戦場とされ、米軍支配に置かれた沖縄県民の犠牲があったことは既に忘れているようです。そして、台湾有事によって同じ過ちを日本は犯そうとしています。日本は戦争を

避けるべきです。

2022年は本土復帰50年を迎えます。「即時、無条件、全面返還」、沖縄住民が祖国復帰運動に掲げていたスローガンです。米軍基地の全面撤去です。本土では、当時の佐藤首相がアメリカ政府との交渉によって沖縄の祖国復帰を成し遂げようと思っていたようですが、沖縄での意識は違います。当時はベトナム戦争時代で、住民の多くは基地従業員でした。米国とソ連は敵対し冷戦状態にあり、ベトナム戦争は米国とソ連との代理戦争でもありました。世界中の若者たちは平和を求め、各国で平和運動が起きていました。日本も同様でした。

沖縄では米軍基地労働者のストライキが繰り返し行なわれ、赤旗を掲げた学生たちや教職員組合が支援をしました。その度にベトナムへの空爆が中断され、米軍は作戦遂行ができない状態になります。沖縄支配が困難な状況と悟ったアメリカはベトナム戦争の最中に沖縄の施政権返還を決断します。沖縄の復帰は沖縄住民が米軍へ対抗し、ストライキやデモ、抗議運動を通して勝ち取ったものです。勿論、本土側の支援もありました。

復帰運動の最中、米国は日本政府の佐藤首相と裏取引をします。米軍は沖縄への施政権を手放すが、日米安保により米軍は沖縄に駐留し、核の持ち込みなど、自由に基地を使えるという内容です。これは、沖縄住民の努力や犠牲を無にする内容です。でもこれが沖縄の本土復帰になりました。日米安保条約を締結した日本は、米軍基地と大きな基地負担を沖縄に押し付け、平和で安全に過ごしています。更に台湾有事を言い訳に、奄美、沖縄の住民に犠牲を押し付けるのでしょうか。

「正義と平和」は人の数だけあります。人と人、会社と会社、地域と地域、国と国など、立

場が違えば、正義も平和も違ってくるものです。人は誰もが自分の正義を主張し、立場を守り、権利を求めます。そうすると、置かれている立場が強い人、権力、地位、財産、名誉などを持つ人の権利の主張が強くなります。お金や地位、権力、財産のない貧しい人、社会的に小さくされている人の権利や人権は軽んじられていきます。

しかし、聖書の中での「正義と平和」は一つです。それは貧しい人、小さくされた人、弱くされた人の命や人権が守られる中にあります。イエスさまはいつもそのような人々に寄り添っておられます。そして、おっしゃいました。

「はっきり言っておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」(マルコ9:41)

またイエスさまは良いサマリア人のたとえ話(ルカ10:25以下)をなさり、最後に、「行って、あなたも同じようにしなさい。」(ルカ10:37)とおっしゃいました。悲しみ、困難にある人を探し出し、親切にしなさいということではありません。ただ目の前に喉が渇いている人がいれば水を差し出し、傷つき倒れている人がいれば傷の手当をすればよいのです。小さく、弱くされた側に寄り添うのです。自分の立場や誇りを捨てる勇気が必要です。

私は、ここに教会の立つべき「正義と平和」があると思います。私たちは誰もが自分を正当化し守ろうとします。自分の立場から出て小さく弱くされた側に立つ時、私たちはイエスさまと共に歩み、「正義と平和」を作る者となると思います。

Justice and peace

特集 / 正義と平和担当者の集い**2022年「各教区正義と平和担当者の集い」を開催**

—オンライン (Zoom) 会議で報告・意見を交換—

正義と平和委員 (ジェンダープロジェクト) 司祭 フィデス金 善姫

「各教区正義と平和担当者の集い」は1月11日(火) 14時～12日(水) 12:00、日本聖公会センター(管区事務所)で行なわれる予定だったが、新型コロナウイルスの影響を受け、去年に続いてオンライン (Zoom) 会議に切り替え、11日(火) 14時～19時とし一日の集いになりました。時間の制限がありながらも各教区人権担当者(11名)と管区正義と平和委員会関係者(10名)が報告し合い、話し合うことができたことを、感謝しております。

各教区は共通して、新型コロナウイルスの影響により、制限の多い中、会議や研修などをオンラインで行ない、協力しています。正義と平和委員会の活動は他にも管区だよりで紹介する機会が多いため、ここでは当日になされた各教区からの報告を要約してお伝えします。

○北海道教区 (宣教活動推進部「教会と社会」グループ)

- ① 「平和について考える集い(原発のない世界を求める週間(6月6日～12日)の参加を誘致する)」、「人権について考え祈る集い(失脚内湖のダム建設の強制労働で亡くなった外国人労働者の遺骨・位牌の返還に関する活動を続けてきた旧光顕寺住職殿平善彦師の講演)」をオンラインで実施した。2020年に実施予定だった北海道教区開催の管区人権セミナーが9月8日～9日に開催された。
- ② 協賛活動は、虹色のはこぶね(ジェンダーについて考える北海道教区有志グループ)主催のLGBTQについての講演会(9月4日)、祈りの集い(9月18日)が実施できた。
- ③ アイヌ民族小委員会の活動は平取町立二

風谷アイヌ文化博物館開催の特別展「英国聖公会宣教師ジョン・バチラーの足あと —伝道活動とアイヌ文化研究—」に対して資料の提供で協力した。

○**東北教区** 各教会の署名活動や個々の活動への参加を細く続けている状況である。その中でも路上生活者への物資援助活動をしている状況である。

○**北関東教区** 信徒の中に北朝鮮へ拉致された可能性のある方がおられることで、ある教会では毎月第1日曜日に問題の早期解決と早期帰国を祈り続けている。

○東京教区 (正義と平和協議会)

- ① 正義と平和に関する活動・事業にかかわる個人(32)また団体(14)によって組織されている。
- ② 2回の協議会を開き、運営委員会はWeb会議で5回行なわれた。
- ③ 講演会「子ども食堂からフードパントリーへ～キリスト者だからできること～」を開催。(信仰と生活委員会、人権委員会共催：オンライン開催)、講師：(公社)東京子ども子育て応援団の今村和彦代表理事、河野司事務局長、参加：約70名。
- ④ 渋谷聖ミカエル教会ヒルダ・ミッシェル講座と共催し、「日本の貧困問題と今私たちができること」講師：稲葉剛氏(立教大学21世紀社会デザイン研究科客員教授)が行なわれた。

○横浜教区

- ① 社会委員会は、「寿町(日雇い労働者、路上

生活者)の活動の現状について」三森妃佐子師による講演会を開く。また、英連邦戦没捕虜追悼礼拝に参列、各国の墓地を回りながら「追悼」と「和解」の祈りを捧げた。

コロナ禍におけるエリザベス・サンダース・ホームの現状、松戸聖パウロ教会で開かれている「常盤平こども食堂」について、管区主催「難民と共に生きる」教会オンラインセミナーに参加しての感想などを記し、ニュースレター「ちいさな手」を発行した。

② 関連団体の活動としては、関東三教区生野委員会による聖公会生野センター30周年を迎えて4回連続セミナーをオンラインで開催している。

③ エッフアタ(障がいと共に生きる集い)の活動として世話人会は休止され、クリスマスカードを発送した。

④ 寿町プロジェクトは20年間続けており、毎月1回のバザーは中止、暖かい雑炊の炊き出しは継続している。

○中部教区(宣教局 社会宣教部)

① 部会の開催はオンラインで5回開かれた。オンライン会議の導入により、遠隔地を中継し会議や研修などが行われる反面、情報の格差はこれからの課題の一つである。沖縄プロジェクト、人権担当、ジェンダー、ハラスメント防止対策、各伝道区の協力によってさまざまな情報共有・協力が行なわれている。

② 死刑制度に反対の抗議を続けている。

③ 202230意思決定機関へ、もっと女性をという啓発運動も含め、宣教協議会へ検討する課題として位置づけ、提案していくことを大切にしている。

○京都教区(宣教局)

① 部キ連主催の講演会、生野センターの連続セミナーに参加し感想を伝え合う他、平和学習委員会の活動として、若いメンバーを掘り起こした。

② 教区内と大阪教区の教会訪問は延期され

た。

③ 「戦争体験集続編」関連として「聖アグネス教会の信徒から戦時中の体験談をお聞きする会」を持ち、奈良基督教会の信徒の「戦争体験聞き書き」の原稿をいただいた。

○大阪教区(「社会宣教委員会」「在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会」と連携)

① 「外国人との共生をめざす関西キリスト教代表者会議」「外国人との共生をめざす関西キリスト教連絡協議会」「カトリック大阪大司教区」が共催して毎年10月第3日曜日に開催される「インターナショナル・デー」が20年間開催されてきたが、2年間休止。各教会で共通の趣旨で祈りを捧げた。

② 聖路加国際病院チャプレンによる性暴力被害者を支援する会について経緯の概略が共有された。

③ 外国人住人に聴く集い(「関西外キ連」で協議され、今回は夜間中学で学ぶ外国人を対象として準備を進めている)。

④ 外国人住民としての人権と生活に関する対行政交渉は数年前から始まり、再開の準備中である。そして、関西におけるエキュメニカルなネットワークが紹介された。

⑤ RAFIQ [ラフィック](在日難民との共生ネットワーク)との出会い。

⑥ 2002年に設立され、日本も加盟していながら国内法が整備されていない「難民条約」に則り、関西在住の難民を支援している市民グループ RAFIQ から講師を招き、当教区宣教局の主催で9月27日、オンラインによる講演会が開かれた(大阪教区のHPにリンクされ今年内は視聴可能)。テーマは「日本における『難民』の生活と支援の実態・アフガニスタンの現状を知る」、講師は田中恵子さん(RAFIQ 共同代表)。

⑦ RAFIQ は、大阪府茨木市にある入管の収容施設に身柄拘束されている、超過滞在等でいわゆる不法在留とされた外国人を訪問し面会する活動も行なっており、まだわずかだが当教区の

メンバーで参加した人もいる、とのこと。今後の展開が期待される。ちなみに、「RAFIQ」とはペルシャ語やアラビア語で「友だち」の意味と聞く。

○神戸教区（社会部）

① 「広島平和礼拝」は中止されたが、8月6日「被爆76年・原爆犠牲者追悼聖餐式」が動画配信された。また、日本キリスト教団広島西分区、カトリック広島司教区、広島市キリスト教会連盟、聖公会広島復活教会の聖職者が立ち上げた「平和の祈り実行委員会」により、教団流川教会で「2021年8・6キリスト者平和の祈り」を開催した。8月5日18時30分より、平和公園にて日本聖公会・カトリックの合同プログラム「平和のための祈りの集い」を行なった。

② ハラスメント対策委員会は教区のHPにハラスメント相談窓口を開設し、リーフレットを作成・配布した。

③ マイラ・エステバン・ドッキョゲン姉支援室（よきサマリヤびと募金活動を含む）フィリピン聖公会北ルソン教区信徒のマイラ・エステバン・ドッキョゲンさんが、介護士候補生として、香川県内で実習勤務中に事故に遭い、昏睡状態となっている。マイラさんをご家族を支援する活動が継続的にこの1年行なわれていて、費用を補助するため「よきサマリヤびと募金」を開始した。

④ 広島には海外の主教の訪問が多い中、特にデズモンド・ムピロ・ツツ主教の逝去（2021年12月26日）に献花をし、南アフリカ大使館よりお礼が届いたことの報告があった。

○九州教区（伝道部）

① 3月1日「聖公会生野センターのための日」祈り等を各教会、関連施設配。

② 6月6日「地球環境のために祈る日」にちなみ、5月～7月末「地球環境のために教会でできること～教会、個人」アンケート実施。参考資料「地球を救う100の方法チェックリスト」送付。アンケート結果を教区会（11月23日）資料としてまとめた。

③ 長崎原爆記念礼拝（8月9日）「死の同心円から平和の同心円へ」（長崎聖三一教会・教区主催）に協力する予定だったが、感染症状況により部会としては参加できなかった。オンライン配信。

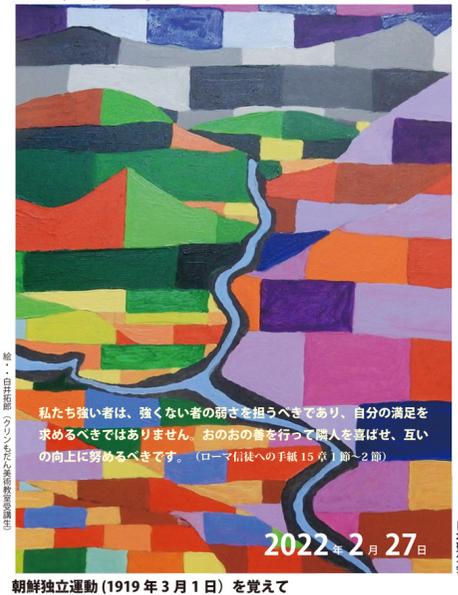
④ 各教会の取り組みの報告、環境のために教会でできること（教会と一人一人の取り組めること）の報告がなされた。

○沖縄教区

2021年の沖縄週間／沖縄の旅は「命どう宝」～無関心に気付く～、6月22日（火）19時～23日19時～オンラインで両90分間開催された。1日目は沖縄県の証言ビデオをみんなで見て、グループディスカッションをした。2日目は沖縄に住んでいる人の話が聞きたいとの声があり、並里主事、岩佐司祭が上原成和司祭の司会で話し、グループディスカッションをした。

○各報告に続いて、宣教協議会に向けて、新型コロナウイルス危機での宣教、宣教協働区での可能性について意見交換を行なった。

聖公会生野センターのための主日



2022年

各教区正義と平和担当者の集い に出席して

神戸教区正義と平和担当者
ステファニア浜井美喜

2022年1月11日、新型コロナウイルスの感染拡大のため、Zoomで今年最初の「各教区正義と平和担当者の集い」が開催された。昨年の4月に神戸教区の正義と平和担当者になった私にとって初めての「担当者の集い」であった。

まず、各教区で人権・社会・正義・平和等の諸問題に誠実に取り組んでこられた先輩の担当者の方々がそれぞれの活動について分かりやすく報告された。私は多岐にわたる内容をメモを取りながら伺っていたが、お話についていくのがやっとだった。(会議後メモを整理したが、一つ一つの課題にすべて自分なりの考えをまとめ上げることが未だできていない。)日頃の不勉強が悔やまれた。

どの委員の方々の報告からも、コロナウィルスの流行が「正義と平和」の活動にも影を落としていると感じた。集まりや活動が制限されたり、中止になったりということが各地で起きている。しかし、困難な状況にあっても、できることを探し、「正義と平和」を実現したいという覚悟のようなものを参加者全員で分かち合えたと思う。今後のコロナの状況が見通せない中であっても2022年の活動が始まったことを大切にしたいと思った。

断るまでもなく、私たちの「正義と平和」は「キリストの正義と平和」であろう。世界中のどの人にもそれなりの考えがあつて、自分は正義であり、平和を希求していると思っている。この集いに参加して、私たちの「正義と平和」が本当に「キリストの正義と平和」になっているか絶えず省みなくてはならないだろう

し、「キリストの正義と平和」に対する挑戦には立ち向かう勇気を持ちたいと思った。意気地なしの私にとっては難しい課題ではあるけれど。

Zoom会議の数日後、SNSで『自分は正しいと信じ込んでいる人を、言葉だけで説得することはできません。私たちにできるのは、時間をかけて信頼関係を作ること。「この人の言うことなら、もしかしたら正しいのかもしれない」と思ってもらえるようになることだけなのです。』というカトリック山口宇部教会の片柳弘史神父様の言葉を読んだ。私たちの働きが、人々が信頼関係を作るきっかけを提供し、共に生きる道を探す一助になれば、と願う。新人の正義と平和担当者としては「大風呂敷を広げた」かもしれない。新人の前のめりをご寛容いただければ幸いである。



■立教学院奨学金についてのお知らせ

立教学院では、1998年度に「聖公会教役者の子及び聖公会神学院校長の推薦する大学院学生に対する立教学院奨学金規程」を制定し、聖公会教役者の子である立教学院各学校の児童・生徒・学生に対し、奨学金を交付しております。

交付は1年間で、次年度以降も申請できます。

各校の申請期間・対応窓口は次の通りですので、希望者は各窓口へ申し出てください。

大学・大学院	…4/1～4/22	財務部経理課
新座中高・池袋中高	…4/1～4/22	事務室
小学校	…4/1～4/22	事務室

※ 窓口業務時間内のみ対応。期間厳守。

※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、窓口業務時間が変更される場合がございますので、随時ご確認ください。

お問い合わせ：立教学院(03-3985-2752)

■ 2022年 青年担当者の集いを開催

再び集まって、出会うために

管区青年委員 司祭 ステパノ 越山 哲也

1月10日(月・祝)午前9時より午後3時まで、オンラインによる「2022年 青年担当者の集い」が開催されました。この集いは青年委員会が主催で、毎年1～2回定期的に行なっており、各教区の青年活動の報告、青年委員会からの報告などを分かち合い、またこれからの青年活動に関するテーマを設定して講師の方から学びの時を持ち、担当者で意見交換を行なってきました。また、普段はなかなか会うことの出来ない各教区の担当者との交流もあり楽しい時でした。しかし、コロナ禍になり対面での集いが出来なくなりここ数年はオンラインによる担当者会となっています。

今回は1992年以降4年に一度開催されてきた「日本聖公会全国青年大会」を、今後どう準備していくかについて考える集いとなりました。

全国青年大会は2016年に北海道で開催され、今回は2020年に関西での開催を予定していました。開催に向けて京都教区と大阪教区の青年で実行委員会を組織し準備を進め、テーマやプログラム、宿泊会場なども決まりつつあり、いよいよ本番を迎える2020年にコロナ禍となってしまい、やむなく大会の中止の決断をせざるを得ませんでした。実行委員の皆さんには大変申し訳なく思っています。

その後、青年委員会ではコロナの状況を注視しながら、どのように青年大会を準備していくか協議を続けて参りましたが、なかなか収束の見通しがつかない中で、開催の準備を具体的に進めていくことは困難でありました。

しかし、こんな時だからこそ青年活動をどうしたら盛り上げていけるだろうか、コロナ禍にあつてどのような方法で青年活動をしていけるだろう

かを考えるために、昨年11月7日に大友 宣医師(北海道教区信徒)を招き、青年委員会でオンラインによる勉強会を行ないました。勉強会のテーマは「コロナ禍における全国青年大会」でした。大友先生は「コロナ対策をする上で大切なのは、まず青年大会で何をしたいのかを明確にして、その上で具体的な対策を講じていくべきである」とおっしゃいました。私はこの一言が強く心に残りました。やみくもに感染対策をして、目的がはっきりしないと、いつまでも準備が具体的に進められません。そこで青年委員会では何が一番大切なのだろうかと考え、導き出されたテーマは「出会うということ、集まるということ」でした。

コロナ禍にあつて「会う」、「集まる」ことが困難となっている現状にある今だからこそ改めて考えてみたい。また、教会(エクレスシア)の語源でもある「集まる」という意味の本質にも関係することでもある。各教区の青年活動、U26の活動、そして全国規模の青年活動また様々な諸プログラムが対面で出来ない、制限せざるを得ない中で、皆が自分事としてとらえられるテーマになりうるのではないかと考えました。

そして来年2023年に「集まって」対面で全国青年大会を開催することを青年委員会(案)として今回の担当者の集いに提案いたしました。対面で行なうという前提で、必要な策を講じていくためにも、大友先生には担当者会でも講師をお務め頂き、対面での青年大会開催に向けて、またこれからの各教区の青年活動の指針に活かされるお話を伺うことが出来ました。担当者からの質問にも丁寧にお応えくださいました。

各教区の青年活動の状況はそれぞれ違いま

す。またコロナ禍にあって正直どのように青年活動をしていけば良いのか分からない、不安な気持ちや誰しもが抱えています。各教区、各教会で2年以上「集まって」礼拝や集会を持つことが出来ない中で、各教区の青年担当者の方々も知恵を出してオンラインによるプログラムを計画しておられます。少しずつでも集まってプログラムが行なわれていかないと、なかなか全国規模のプログラム開催は難しいとは思いますが、しかし、その逆の発想もあり、ともかくもコロナの感染拡大

状況の収束を注視しつつ、まずは全国大会を開催し、各教区の青年活動の再開に力が与えられまた歩み出していくきっかけになればとも思うのです。

全国青年大会の開催意義はそこにもあるのかなと感じます。一人一人が青年に声を掛けて、「仲間とオンラインではなく直接会いたい」という思いを実現出来るように、対面での全国青年大会開催に向けてこれから準備を進めて参りたいと思います。

世界の聖公会の動向

☆アングリカン・コミュニオン、次期カンタベリー大主教選出における発言権拡大について協議 ☆主教たちが紛争下の世界におけるリーダーシップについて協議

管区渉外主事
司祭 ポール・トルハースト

○アングリカン・コミュニオン、次期カンタベリー大主教選出における発言権拡大について協議

英 国聖公会の大主教協議会は、将来のカンタベリー大主教を指名する組織の構成を変更する提案に関する協議を開始した。この提案が受け入れられると、世界のアングリカン・コミュニオン関係者がカンタベリークラウン指名委員会に対して、より大きな発言力を持つことになる。

現在、16名の投票メンバーのうち、カンタベリー教区選出の6名に対し、英国聖公会外のコミュニオン全土からは、たった1名が選ばれているに過ぎない。

今回の提案は、アングリカン・コミュニオンからの代表を5名に増やし、カンタベリー教区からのメンバーを3名に減らすというものである。よって、英国聖公会からは、総会選出の6名を含む

9名が選出されることになる。

この提案は、今月末に開催される全聖公会中央協議会(ACC)の常任委員会で審議され、3月に開催される首座主教会議でも議題に挙がる予定となっている。

協議には、アングリカン・コミュニオンと英国聖公会の主要なパートナーが参加し、7月の英国聖公会の総会に提出される最終案が作成される。

○主教たちが紛争下の世界におけるリーダーシップについて協議

アングリカン・コミュニオンの主教たちは、ランベス会議に向けた「旅」の一環として、新しい一連の主教対話に参加するよう招かれている。「紛争世界のミニストリー」と題されるイベントが、2022年2月、3月、4月にオンラインで実施される。

この一連の試みでは、聖書の考察、映画、ディ

スカッションを通して、ミニストリーとリーダーシップを形成するのに役立つ3つの習慣について、神学的、戦略的、実践的なインプットを提供する。そして「存在すること、好奇心を持つこと、再考すること」の意味を探っていく。

また、このシリーズはランベス会議における「リスニング・フェーズ」を継続し、主教たちが祈り、出会い、2022年7月の本番に向けて準備することにも重点を置いている。2021年、ランベス会議チームは6ヶ月間の「主教の対話」シリーズを実施し、主教たちは『ペトロの手紙I』を学び、会議テーマのいくつかについて議論を進めてきた。

カ ンタベリー大主教のアングリカン・コミュニケーションに関するアドバイザーを務めるア

ンソニー・ポゴ氏は、次のように語る。

「ランベス会議のテーマは、『神の世界のための神の教会』であるとはどういうことかを探求することに尽きます。今日、私たちが生きている世界は複雑で、分裂化しています。世界中の主教は、しばしば紛争や困難、二極化に直面している状況で指導し、宣教を続けています。この新しいシリーズが、主教たちに対し互いの状況や直面している課題から学び、分かち合いながら、耳を傾ける場を提供することを、私たちは望み、祈っています」。

このシリーズには、特に複雑で分断された状況下でミニストリーを形成してきた世界中の神学者や実践者からのビデオ寄稿も収録されている。



Lambeth Palace
Photo Credit: Alex Baker/Lambeth Palace

2023年版「聖公会手帳」・事業紹介への出稿についてのお願い

「聖公会手帳」では巻末の特集欄で、日本聖公会が幅広く関わる学術・教育・文化・医療・福祉などの諸分野にわたる社会的活動を〈事業紹介〉として掲載してまいりました(2022「聖公会手帳」382～410頁を参照)。現在編集集中の2023年度版「聖公会手帳」では、この〈事業紹介〉の趣旨に賛同し出稿していただける事業所を新たに募集しております。記事掲載の申し込み・詳細等について管区事務所にお問い合わせください。2022年7月15日までお願いいたします。☎03-5228-3171(総務主事または広報主事宛て)

新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

北海道教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断

- 教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行ない、誰でも参加可能。
- 礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

東北教区 各教会判断とするが、現状は礼拝（公禱）の休止を考慮すること

- 引続き十分な感染対策を取ること。
- 各教会衛生対応状況再確認のこと。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- 警戒は緩めないこと（No.8-3 遵守のこと）。
- 3月6日迄「まん延防止重点措置」となっている地域は公開礼拝休止とする。
- 礼拝休止の場合は主教に報告のこと。
- 状況判断により「一種陪餐」も検討のこと。
- 堅信受領者総会開催については十分な感染予防に徹すること。

北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- 各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

東京教区 礼拝（公禱）の公開または休止

- 感染状況の懸念が深まる中、各教会・礼拝堂での礼拝の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの状況に合わせて実施。
- 幾つかの教会・礼拝堂は公開の礼拝を休止している。

横浜教区 礼拝（公禱）の一部休止

- 「礼拝指針」（更新・2022年1月版）の徹底。
- 「新型コロナウイルス感染者発生時の教会対応ガイド」の順守。
- 在籍外の教会、また教区を越えての礼拝出席は控える。
- ウイルスの感染拡大への対応として、それぞれの教会または地域の感染状況により、各教会で礼拝の公開休止の判断をする。

中部教区 礼拝（公禱）の再開

- 主日及び週日の礼拝再開、休止については

『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。

- 緊急事態宣言下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。
- まん延防止等重点措置の対象エリアにある教会は聖歌の歌唱禁止。

京都教区 各教会で判断

- 緊急事態宣言は解除されたが、引き続き感染防止策は行なう。
- 主日礼拝の方法は各教会の判断としている。

大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- 基本的には、個々の教会の判断に委ねる姿勢にかわりはない。

神戸教区 礼拝（公禱）の継続または一部は礼拝自粛

- 教区自粛基準に従って、礼拝（一種陪餐、聖餐式前部）を行ない、各教会委員会の判断で自粛している教会もある。

九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

- 無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の再開

- まん延防止等重点措置解除後の礼拝の開催方法は各教会の判断に委ねる。

管区事務所 勤務体制の変更

- 当面の間、平日（月曜日～金曜日）10:00～16:30の勤務時間短縮・出勤体制。

- * 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

（2022年2月25日現在）



これまでと、これから

こんにちは。2023 宣教協議会に関する大切なお知らせです。これから隔月にて、宣教協議会のテーマや具体的なプログラムについて、共に分かち合っていきたいと思えます。

これまでの経緯

2020年10月の日本聖公会第65(定期)総会において、2022年11月に清里で宣教協議会が開催されることが決議されました。この決議をもとに構成された実行委員会は、2022年1月までの間に、合計18回のオンラインミーティングを重ねて、準備を進めてきました。また、2021年9月9日(木)・10日(金)・10月7日(木)・8日(金)の4日間にわたり、各教区の宣教担当者とオンラインにて意見交換を行ないました。

話し合いの中で、たくさんの課題が見えてきました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実行委員会は、対面での集まりを一度ももつことができていません。そのような状況下で、1年後に140名が対面で集まるのが可能かどうかという、プログラムを作る上での課題がありました。そして何より、皆様との対話の場の設定が必要でした。宣教協議会の準備は、各教会や施設、管区諸委員会など、日本聖公会に連なる皆様お一人おひとりとの対話の中で、深められ、多くの方々と一緒に、進められていくことが必要だと考えました。

そこで、実行委員会は1年間の開催延期を提案し、主教会と常議委員会で承認をいただきました。これから宣教協議会に向けて様々に行われていく対話と祈りの時を、ご一緒いただけますようお願い申し上げます。

テーマとして話し合われていること

—「あなたは誰の隣人になりますか」—

2021年4月から6月にかけて、各教区・教会・関連施設・管区の委員会の皆様には、アンケートにご協力いただきました。それは2012 宣教協議会からの「10年の実り」や、様々なご意見をお寄せいただくものでした。アンケートの回答は、実行委員会にて常に参照すると共に、後述の分科会でもフィードバックしながら、対話を重ねていきたいと思えます。

また実行委員会は、宣教協議会の全体テーマについて話し合いを重ねてきました。まず議論の中で見えてきたのが、①「光を持ち寄る」②「10年の実りへの感謝」③「丁寧な牧会」④「宣教協働—共に歩む—」⑤「隣人と共に、隣人のために働く」という諸テーマでした。これらは、5つに色分けした図によって示されました。様々な困難に直面しつつも、多彩な光が満ちている、わたしたち日本聖公会の現在の姿、そしてこれから進んでいくべき姿を示しています。



さらに、これらのテーマを、アンケートの結果も踏まえて分かち合う中で、見いだされたのが、新約聖書「ルカによる福音書」10章25節以下にある、「サマリア人のたとえ」でした。律法の専門家の「わたしの隣人とはだれですか」という問いに対して、イエス様は、「あなたの都合ではなく、あなたが、出会わされた人の『隣人』になること」を求めておられます。それは、「相手の人が、あなたの『隣人』になること」でもあります。「あなたは誰の隣人になりますか」という問いかけは、今後も聖書の分かち合いや黙想を通して、深めていくべきテーマにしていきたいと考えています。

大切にしていきたいこと・これからの予定

宣教協議会の実施にあたっては、以下のことを大切にしていきたいと思います。また、今後の予定についてもお知らせします。

- イエス・キリストは「わたしはまことのぶどうの木」（「ヨハネによる福音書」15章1節）と弟子たちに告げられました。「まことのぶどうの木」であるイエス様とつながり、そこから伸びていく、様々なぶどうの枝の集まりが、宣教協議会全体のイメージです。
- 2012 宣教協議会「いのち、尊厳限りないもの」の提言で示された、「宣教・牧会の収穫感謝」を行ないます。各教区・教会の苦労や取り組みの一つひとつ、そして教区間協働・再編の歩みも、分かち合います。
- 皆様と思いを分かち合い、共に祈り、つながるプロセスを大切にします。宣教協議会は1年半先のことではなく、すでに今、この瞬間に始まっていると、考えていただければと思います。
- 〈ぶどうの枝だより〉として、『管区事務所だより』、各教区報や、ブログ、Facebookなどで情報を発信していきます。
- 〈ぶどうの枝分科会〉として、2か月に1度、様々なテーマの分科会（管区の各委員会代表者、青年委員やU26運営委員、各教区青

年担当者、関連施設チャプレンなど）を行います。

- 〈ぶどうの枝協議会〉として、2022年8月22日（月）～23日（火）に、各教区宣教担当者や管区諸委員と実行委員会が対面で集まり、今後の道筋を分かち合う予定です。
- 宣教協議会の最終日としての全体会を2023年11月10日（金）～13日（月）の3泊4日、清泉寮（山梨県清里）にて開催いたします。

世界は今、環境破壊や気候変動、貧困や格差のさらなる拡大、地域紛争など、大きな課題を抱えています。2012年の宣教協議会で挙げられた課題に加えて、新型コロナウイルスの流行や激増する自然災害は、新たに直面した大きな課題であり、地球規模での祈りや連帯、協働という取り組みが必要です。「まことのぶどうの木」であるイエス様につながる一人ひとりが、この枝の実りとされ、力をいただき、隣人と共に、太陽の光を受けて育っていくような宣教協議会にしていきたいと思います。わたしたち一人ひとりが、日本聖公会の宣教の業を担う大切な一人であることを心に留め、ご一緒にこの2023 宣教協議会を作り上げていきましょう。

宣教協議会実行委員会



大齋節

2022年

人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、
また、多くの人の身代金として
自分の命を献げるために来たのと同じように。
(マタイ 20:28)

3月2日(水)
～4月16日(土)

日本聖公会

📖 管区・出版物案内

『大齋節中の礼拝』 頒価 税込 374円

2017年10月5日 第7刷発行

お求めは バイブルハウス南青山 Tel. 03-3567-1995
またはお近くのキリスト教書店にお願いいたします。

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。